

三宅島の現状（その18）

平成13年11月10日

現地災害対策本部（三宅島）

【低気圧の影響】 1時間最大雨量38ミリ

11月に入っても、大雨がありました。晴天の特異日であった文化の日11月3日、1時間最大雨量38ミリの雨が降りました。雨のピークが短く、総雨量が89ミリと比較的少なかったため、大きな被害にならずにすみましたが、ピーク時には雨水が、道路上を川のように流れ、椎取神社付近や伊豆保育園付近などで深さ50～60センチ程度の道路冠水がありました。灰の堆積や山林の荒廃などで、これまで豊かな森林が持っていた保水・遊水機能が低下し、降った雨が一気に流れ出すようになっています。

【復旧事業の進捗】 工事は次の段階へ、、、

三宅島の復旧作業の根幹となる砂防ダムの工事が、夜間滞在施設の充実と共にようやく本格化してきました。三七沢（ガニガ沢）ダムは左半分と真中部分が出来てようやくダムらしい形が見えてきました。川田沢や伊ヶ谷沢など他のダムもコンクリートを打つ段階になっています。今後の進み具合については、広報みやげなどの写真で見ていただくようにします。

また、前に書いたような雨が降っても、5箇所の仮橋が完成してからは島を一周する交通機能は確保できるようになっています。道路の復旧は、路面の凹凸の補修や新しい橋を架けることなど次の段階に入っていきます。

阿古錆が浜港のかさ上げ工事が始まりました。これは、噴火の影響で沈下した岸壁の高さを、平均約34センチの厚さのコンクリートを打ち足して元に戻し、波の影響を少なくするために行うもので、年内の完成を目指しています。

【山腹の状況】 雨水が沁み込まない

林道雄山環状線から上部の村営牧場では、多量の火山灰が雨や風で締まり黄土色のやや硬い粘土状になっています。このため、降った雨が地中に沁み込まず、低い所へと流れるので無数の細い水路が形成されています。また、雄山火口周辺から流れ出た雨水は、牧場上部で集まり、過去の溶岩や火山灰を掘り込み、数匹の黒い大蛇のように牧場を下り、角屋敷、立根、芦穴、榎木の各沢へと流れ込んでいます。山頂へと伸びていた林道阿古線は、雨水で路体が流失し、周辺では火山弾や降灰で折れた木々が散乱しています。倒木の樹皮が剥け、白骨のように見え、恐怖感がふつふつと沸いてくるような景色になっています。

北側の林道神着線付近でも火山灰が相当の厚さで積っており、降灰の重さで倒れた木が散見されます。火山弾の影響は少ないようでした。ほとんどの樹木に葉は無く、中にはカラカラに乾いて立ち枯れている木も多くあります。しかし、わずかですが木の幹から葉を出しているサクラやツゲ、タブなどもあります。森の早い回復を願うばかりです。

【就労情報】

村役場では就労情報を提供し広報しておりますので、就労を希望される方は三宅村村民課相談係（代表03-5321-1111 内線45-640）にご相談ください。

なお、直近の情報は、ホームページ「三宅島を離れた村民のみなさまへ」をご覧ください。
(アドレス <http://www.miyakemura.com>)

お問い合わせ先：三宅支庁総務課行政係 03-5320-7854

高齢者等に対するインフルエンザの予防接種についてのご案内

予防接種法の一部が改正され、本年11月7日から「高齢者等に対するインフルエンザの予防接種」を希望する対象者に、市町村が接種を行うことになりました。

三宅村では、当該予防接種を希望する対象村民に対して、各避難先区市町村に特段のお願いをさせていただいておりますので、詳しいお問い合わせやお申し込みなど、避難先を管轄する保健所・保健センター・区市町村などの予防接種担当窓口へご連絡ください。

なお、接種費用については、これまでの全額自己負担から三宅村が負担する部分（公費負担）がありますので軽減されます。

次にインフルエンザに関すること、予防接種に関することなどをご案内いたしますので、必ずお読みいただき、ご理解したうえで、ご自身の判断で予防接種を受けるようお願い申し上げます。

<インフルエンザとは>

インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。典型的な症状は、突然の高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛などで、のどの痛み・咳・鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴であり、気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多い点、流行が始まると膨大な数の人を巻き込むという点、流行すると特に65歳以上の高齢者や慢性疾患患者で死亡率が普段より高くなるという点などでも普通のかぜとは異なります。

<インフルエンザの予防>

予防の基本は、流行前の12月中旬頃までに予防接種を受けることで、一般的に65歳以上の方は1シーズン1回の予防接種で効果があるとされています。また、常日頃から十分な栄養や休息をとること、外出時のマスクや帰宅時のうがい、手洗いをすることなどに心がけることも必要です。

<インフルエンザ予防接種の副反応>

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり・はれたり・痛んだり・僅かながら発熱したり・寒気がしたり・頭痛・全身のだるさなどがみられることがありますが、通常2～3日で治ります。また、接種後数日から2週間以内にけいれん・運動障害・意識障害の症状が現れる等の報告もあり、非常にまれですが、ショ

ックやじんましん、呼吸困難などが現れることがあります。

<接種対象者など>

法律で決められたインフルエンザの予防接種の対象者は、65歳以上の方及び60歳以上65歳未満の方で心臓やじん臓、呼吸器に重い病気のある方です。（60歳以上65歳未満の方で対象となるかどうか分からない場合は、保健福祉課にお尋ねください。）

しかし、対象者であっても予防接種を受ける義務はなく、ご自身が接種を希望する場合にのみ予防接種を行います。また、ご自身の正確な意思の確認が難しい場合などは、家族やかかりつけ医によって特に慎重に接種対象者の接種意思の有無の確認を含め、接種対応を決定する必要があります。（最終的に確認ができなかった場合には、予防接種法に基づく接種はできません。）

<予防接種を受ける前に>

インフルエンザの予防接種について、この通知やその他パンフレットなどをよく読んで、必要性や副反応などについて十分ご理解ください。

気にかかることやわからないことがあれば、必ずかかりつけ医や保健福祉課にお問い合わせください。

<予防接種を受けることができない人>

- ① 明らかに発熱のある人
- ② 重篤な急性疾患のかかっていることが明らかな人
- ③ 過去にインフルエンザの予防接種に含まれる成分によって、ひどいアレルギー反応（「アナフィラキシー」と呼び、全身にひどいじんましんが出たり、吐き気、嘔吐などの症状に続き血圧が下がっていく激しい全身反応をいいます。）を起こしたことがある人
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

また、心臓病・じん臓病・肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人や今までにけいれんを起こしたことがある人・中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人・鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人などは、予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはなりません。

※その他詳細につきましては、保健福祉課にお問い合わせください。

三宅村新宿総合事務所保健福祉課保健係

電 話 0 3 - 5 3 2 1 - 1 1 1 1

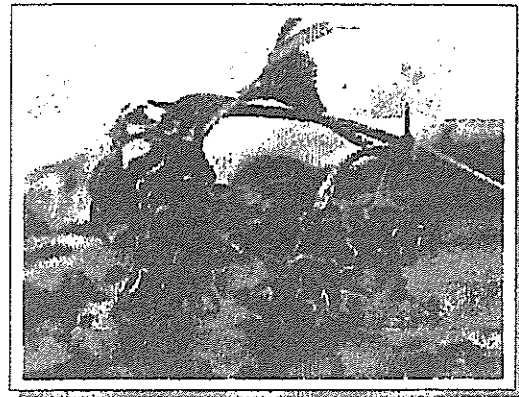
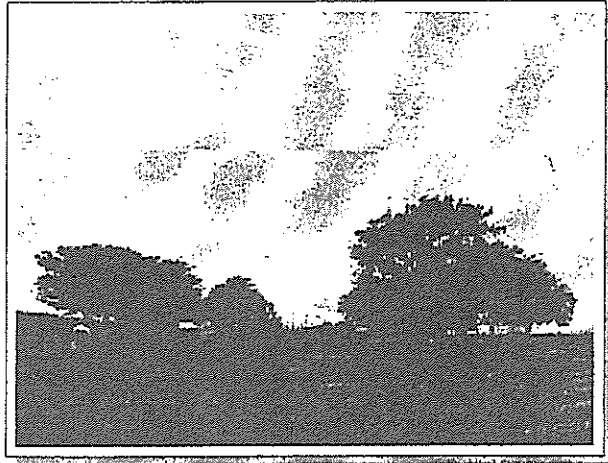
内 線 4 5 - 6 3 0、4 5 - 6 4 1

「歌でも唄おう会」が結成されました

女性の有志の皆さんから、昼休みを利用して大きな声で歌を唄い、ストレスを発散したいと言う要望がありました。この声を受けて平井美也子さんがグループを募り「歌でも唄おう会」を立ち上げました。

小春日和の温かい晴れた日の昼休み、5～6人のグループで紅葉の始った都立小宮公園の芝生の上で思う存分唄っています。だんだん興に乗ってきて、島の歌(あじさい音頭)で踊り出す人もあって、賑やかなひと時を過ごしています。

「今後はレパートリーを広げ、メンバーも増やして続けていきたい」と抱負を述べておりました。お楽しみに。



9月からの来場者紹介

次の方々が遠路のところ当農場を訪ねてくださいました。

- ・八王子市役所企画政策室(広報担当) 神宮寺寿郎さん外1人
- ・新江東清掃工場長 薬師寺史良さん外7人
- ・都立保健科学大学学生 中西さん
- ・東京福祉専門学校(医療福祉科) 石井文子さん外2人
- ・現八王子警察署長(元三宅島警察署次長) 河口慎平さん
- ・現阿古駐在所(警察官) 西島孝さん
- ・元伊ヶ谷駐在所(警察官) 杉浦さん
- ・持丸敬己さん(三宅島出身・埼玉県戸田市在住)

- 三宅島「げんき農場」だより バックナンバーについて -

三宅島「げんき農場」だよりのバックナンバーは、三宅村のホームページ「村民の広場」の「げんき農場情報」でもご覧になることができます。こちらでは掲載写真がカラーでご覧いただけますので、インターネットをご利用できる方は是非ご覧下さい。

「村民の広場」アドレス → http://www.miyakejima.gr.jp/info_miyake/

三宅島「げんき農場」だより

発行元 三宅島「げんき農場」
所在地 八王子市宇津木236-1
Tel&Fax : 0426 - 27 - 4355
e-mail : genki-farm@nifty.com

稔りの秋を迎えています

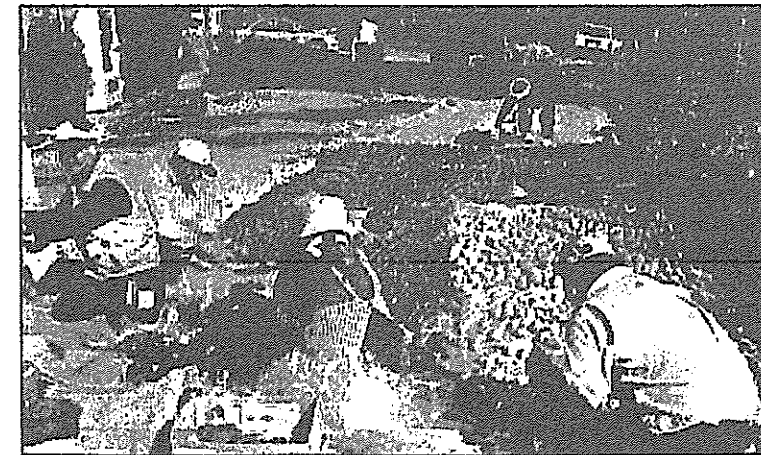
三宅島げんき農場の主要作物である特産の赤芽里芋、アシタバ、サツマイモなどが収穫の最盛期を迎えています。

今年の夏は“カラ梅雨”でした。7月初めには梅雨明けとなり、それから毎日が干天続きで焼け付く様な猛暑に悩まされました。赤芽里芋は大きな葉をしておれさせながらも、枯れない様にと頑張っている様子でした。アシタバは木陰の部分は枯らさずに済みましたが、強い陽射しを受けた処は耐え切れずに枯死しました。



この間、場員は何とか乾燥を防ぐため敷わらやマルチなどでの被覆、朝夕の灌水など懸命に対策を講じてきました。その甲斐あって里芋は背丈以上に伸び、1株2.5kg位まで生長し、アシタバも枯死した部分にはこまめに補植したので立派な株に生長し、収穫の最盛期を迎えています。

サツマイモは日照に強い作物ですので、順調に成長し収穫最盛期に入っています。都立小宮公園を散策する人からは『素晴らしい芋なので是非わけてもらえないか』と嬉しい声も掛けてもらっています。



夏の間農場を飾ってくれたポチュラカの花は、秋の深まりと共に終わりに近づいていますので、鉢上げをして来年に向けハウス内で越冬させる予定でいます。また、約5万本のコスモスが赤・白・ピンクの花を付け今を盛りに咲き誇り、都立小宮公園を散策する近隣の皆さんや幼稚園児、小中学校の生徒の目を和ませてくれています。



「げんき農場を引き継ぐにあたり」

4月のげんき農場の説明会の時、皆と一緒に農場が建設されると言う予定地を見学したのですが、雑草の茂った荒地で、畑になるとは到底考えられませんでした。

私は10月から就労させて頂いておりますが、再び農場に来て見てビックリ。あの雑草の山が見事な畑に変わっていました。この変わり様はとでも考えられませんでした。これも皆、4月から9月までの一番大変な時期に作業をしてくれた前期の皆さん方の努力と汗の賜物、そして関係機関の皆さんのお蔭だと思っています。

八王子のひよどり山は随分寒いところだと聞いていますが、これからいよいよ冬を迎え本格的な寒さになります。前期で働いた方々の努力を無にしないように、今から収穫と種芋の貯蔵を図り来年に向けて頑張りたいと思っています。



長谷川匡司
(武蔵村山市在住:伊ヶ谷)

「前期の皆さんに感謝して」

三宅島げんき農場で9月まで作業をされた前期の皆さん、如何お過ごしでしょうか。皆さんが夏の暑さにも負けず努力して作ってくださった、サトイモ、アシタバなどの作物が立派に育ち、今、私達後期の人達が稔りの秋を迎えて、楽しみながら収穫しています。

農場に咲いているコスモスも私達の背丈ほどに伸びて、色とりどりの花を沢山つけ、今が見頃となっています。テレビで紹介されている風景よりも、実際のげんき農場の方がずっときれいです。散歩で訪れる人達もコスモスの花を見て『良ききれいに咲いていますね...』と声を掛けてくださいます。

残念だったのは、青く小さかった柿の実がようやく大きくなって色付いたのも束の間、その数日後にはカラスの先客に1個も残らず食い荒らされてしまったことです。暇があったら干し柿でも作ってみたかったのですが...



斉藤 カネ子
(東久留米市在住:大久保)

ひよどり山の一角にあるげんき農場の敷地は兎に角広いのと、空気が良いので作業をしても本当に気持ちの安らぐ処です。前期の皆さん、お近くにお出での時にはお立ち寄りになっては如何でしょうか。お待ちしております。

「秋空の下で」

10月から三宅島げんき農場に就労することになり、三宅島各地域の人達が一緒の仲間になって、農場内には毎日活気あふれる音が聞こえています。

げんき農場の隣は都立小宮公園になっていて、だんだん秋も深まってきて樹々も色づき附近一帯が絶好の散歩の路となっています。

前期の方達が9月まで作業をして植付けたサトイモ、アシタバ、サツマイモなどが今収穫の最盛期を迎えています。その後を引き継いで10月から働いている私たちメンバーも、来年は雄山の噴火が終息し帰島できることを夢見て収穫に励み、『持ち帰って作付けするんだ』と種苗の確保に懸命になっています。

やわらかな晩秋の陽射しの中でコスモスの花が満開に咲き、さわやかな秋風に揺れています。

たそがれて 農場の空 あかね雲 (高田 良夫)



高田 良夫
(八王子市上柚木在住:神着)

エルサルバドルの皆さんが「げんき農場」を視察

11月5日、エルサルバドル国の医療技術養成校副校長 ホセフィーナ・コンセプション・カスタニェダさん他2名の看護教育の先生方が、三宅島の噴火による避難生活を続けている中で心のケアを学びたいとの希望で訪れました。

特にげんき農場では島民の就業の場として、また土に触れ作物を作るなどのほか、お互いのふれ合いの場として健康の維持やストレスの解消に大きな役割を果たしていることについて、関心を持たれたようです。通訳を通じて場員の皆さんとも意見交換をしていました。



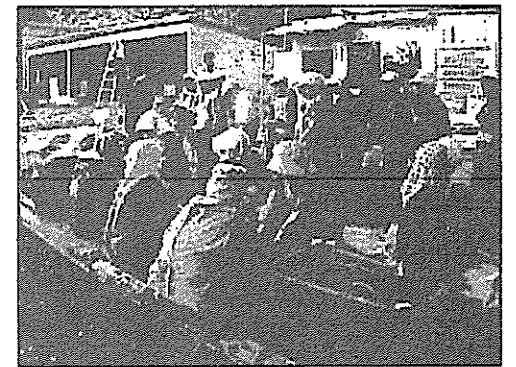
エルサルバドルってどんなところ?

エルサルバドル国は中米でも有数の火山国で、常に噴火・地震などの危険にさらされ、今年の1月と2月にも大地震があり、数多くの被災者(死者)が出たとのことです。家屋・職を失った方々も多く、現在もテント生活を送っているとのことです。

八王子市立宇津木台小学校の生徒が見学に来ました

11月6日(火)、宇津木台小学校2年生の生徒約100人が「げんき農場」を訪れました。小春日の暖かい日、一時間ほどの短い時間でしたが、場内を見学したあと、交流の森で『どんなものを作っているのですか?』『農場で働いていて楽しいことや大変なことは何ですか?』など、熱心に質問していました。

生徒代表の内田まなみさんからは次のようなメッセージも頂きました。



『のうじょうのかたち今日は。うつ木台小学校の2年生です。私たちは、みやげ島がふん火したことを、学校で先生から話を聞いて皆さんのことをとても心配しています。そしてぼ金をしたりえんぴつやけしごむ、ノートなど、いろいろなものを集めてきふをしました。ふん火が1年い上つづいて大へんだと思いますが、がんばって下さい。』



「八王子の森にて」

農場の 昼の休みの 島節に
父母しのび 三宅を想う

(平井 美也子)
(武蔵村山市在住:阿古)



「いも掘り学習」 - 三宅島の小学生が来場

秋の風が心地良い10月23日早朝、秋川から小学生が22名、先生方、浅沼教育長、東京都教育庁三宅出張所から桜田昭正先生(元坪田中学校校長)とで、総勢43名がバスで来場。毎朝恒例の朝礼後のラジオ体操は、農場側の島民35名と合わせて約80名にもなり、素晴らしい一日の始まりでした。

最初に三宅島の普及所長 山岸さんの案内で農場全体を見学し、その後は本日のメインイベント「いも掘り」の体験。畑では子供たちの歓声が上がる。「大きいぞ」「いっぱい付いてるよ」「ミミズだ」「トカゲだ」...

自然の豊かな中で育った小学生達にとって、サツマイモ畑は八王子の中の三宅島であったかも知れません。



正午には急ごしらえのテーブルが並んだ「交流の森」で、里芋の入った豪華な豚汁に舌鼓を打ちました。

賑やかな昼食の後は、管理室の和室に入り勉強会を行いました。島の祖父母から昔の話などを聞いて、しきりにうなづく子供たち。最後にコスモス畑から沢山の切花を土産にもらい、バスで秋川へ帰りました。場員にとっても心温まる一日となりました。



— その後早々に桜田元校長先生より、礼状が届きましたのでご紹介させていただきます —

先だってげんき農場訪問の際には、言葉に尽くせぬほどのお世話になり、子供達も、素晴らしい体験学習をさせていただいたということで大喜びでした。

秋川に帰ってからの、子供達の喜びの声は「島の人たちに会えてうれしかった。」「汁が美味しかった。」「芋を鎌で切ってしまったけど楽しかった。」「小母さんの話を聞いていたら早く島へ帰りたくなってしまった。」「僕たちも頑張ろうと思った。」等々でした。

げんき農場の‘息吹’を吸った子供たちは、秋川へ戻ってからも目は輝き、声は弾み、何時もよりその一挙手一投足、生き生きとしていました。

私自身、久しぶりにお会いした懐かしい顔、顔にそして島言葉での島の様子を耳にして体の心がジーンとしてしまいました。(強がっていたのに里心が出てしまいました)

農場は見晴らしがよく、イベント広場から、緑色濃く育っている明日葉や里芋、更には美しく咲き競うコスモスを眼下に観、遥か彼方を眺望しながらの深呼吸は最高のご馳走でした。

Kさんの「家の中に閉じこもっていたら体に良くない。ここに来て島の皆と土いじりをし、島の話をし、美味しい空気を吸うことが、今は一番の楽しみであり健康法だ。」と言う話にも、素直に頷くことが出来ました。

げんき農場で働いている人、働いていない人にとっても、三宅村民にとってのげんき農場の存在意義について身をもって教えられた訪問でした。本当に有難うございました。

「天候に恵まれ、素晴らしい体験をさせてもらった子供たちは幸せだったけど、私たちも、お金やものに代えることの出来ない素晴らしい宝物をお土産にもらいましたね。」・・・が私と浅沼教育長との電車の中での嬉しい、そしてちょっとしみじみとした会話でした。

最後にもう一度「有難うございます。」と申し上げ、お礼に代えさせていただきます。

平成13年10月30日



平成13年11月10日発行

シルバーみやげ ミニ・ニュース



編集・発行
社団法人三宅村シルバー人材センター
東京都千代田区飯田橋3-10-3
シニアワーク東京 2階
Tel ; 03-3239-4343
Fax ; 03-3512-3477

三宅島民就労 対策事業始動 未就業会員に光



三宅村では、避難島民の就労対策の一環として、この4月から八王子市の都有地を活用して「元気農場」を開設し、年間約100名を超える島民の就労が確保され、就労対策のモデル事業として注目されています。

村は、この程その第2弾ともいべき就労対策事業を実施することになり、当センターでは公園等清掃事業を受託し、60数名の会員が3ヶ所で10月22日から来年3月末日までの予定で就業を始めました。今後、他の現場が終わり次第20数名の会員が合流して、総勢約80～90名が就業する予定です。

これまで就業していなかった会員の中には、仕事はしたいが家庭の事情や高齢で遠くへ通ってまで仕事はできないという人が多かったが、この問題を一気に解決してくれる近場での就業に、会員から「よかったあ」とよろこびの声があがっています。

八王子市、武蔵村山市、北区それぞれの団地に近い都立大、三宅高校、産業技術研究所の構内では、清掃・除草、剪定作業などに笑顔いっぱい、さわやかな汗を流しています。

北区の現場では、東京に来てから初めて

の仕事という会員が殆どで、初日、不安そうに説明を聞いていましたが、思い思いの作業衣をビシッときめ込んで、いざ、現場に入ると久し振りに見るカマやクワ、一輪車に思わずニッコリ。触れば、自然に手足が動いてしまうというあんばいで「腰が痛くなくても、おら、知らねーぞ」とリーダーがブレーキをかける一幕もあました。

北区には、60名の会員が避難していますが、現在、特別会員を含めて46名が就業していて、就業を希望する会員のほぼ全員が仕事に就いていることとなります。

北区シルバーで20名就業 桐ヶ丘・三宅島ボランティア会=まとめ役に



北区では、避難島民のために緊急雇用対策事業をとりまとめ、北区シルバーが事業を受託し、当センターの会員が北区の特別会員として就業しています。

仕事は、桐ヶ丘中央公園や緑道公園の除草・清掃作業で、2班に分かれて午前中の就業に「年寄りにはちょうどいい」という声も聞かれ、2人のリーダーを中心に和気あいあいと就業しています。

北区シルバーには、避難直後から特別会

員の受入れにご理解を頂いてき『さア 始めるべよ〜』北区で
ましたが、今回、一挙に18名が登録し、合計22名の会員がお世話になっています。

北区役所並びに北区シルバーのご厚意に対し、会員共々心から感謝申し上げたいと思います。

また、この仕事の取りまとめには、桐ヶ丘・三宅島ボランティア会に大きな役割を果たして頂きました。当会は、(顔面へ横く)

平成13年11月10日発行

かねてから、遺跡の発掘作業や墓地の除草作業を紹介するなど、まとめ役として、避難島民の就労対策に積極的に取り組んでいます。今後とも、ボランティア会の更なるご活躍を期待したいものです。

シルバーフェア開催

三宅村S/C=写真展と経験発表

去る10月26日、シニアワーク東京で区・島しょ部のフェアがにぎやかに開催されましたが、来る11月27日、市町村部のフェアがアミュたちかわ（立川市民会館）で開催されます。

当日、午前10時からシルバー人材センター連合の経験交流大会も同時開催され、基調講演につづいて経験発表が行われますが、今回は当センターも発表の機会に恵まれ、「島外避難・この1年の活動」と題して、事務局長が発表することになっています。一般の方も入場できますので、誘い合わせてご来場ください。

尚、詳細は下記のとおりです。

記

★日時 11月27日（午前10時から16時まで）

★場所 アミュたちかわ（立川市民会館）

★催事

1. 三宅村シルバー写真展=会員のこの1年の活動状況をパネルで展示

平成13年9月分事業実績 (単位:円)							
月	区分	受託 件数	就業延 日人員	契 約 金 額			
				配分金	材料費	事務費	計
9	公共	2	200	1,039,180	31,500	10,200	1,080,880
	民間	4	316	1,914,985	0	22,225	1,937,210
	計	6	516	2,954,165	31,500	32,425	3,018,090
累計	公共	7	549	2,331,880	67,900	62,550	2,462,330
	民間	41	1,144	7,077,094	0	72,164	7,149,258
	合計	48	1,693	9,408,974	67,900	134,714	9,611,588

後
書

山の桜が 田中守節（七五歳）
 南の空から 色づくころは
 やさしい小鳥の新天地
 こんな位みよい鳥はなし
 来年春 又よるしくと
 おいらが島は噴火の島だ
 御神火様に負けないと
 先祖代々の生き抜いた
 先んなの祈りで鎮めゆき
 静かに暮らそう故郷で

2. 各市町村シルバーによる展示・即売リサイクル品、苗木、農産物販売、洋服リフォーム実演販売、竹炭ほか
3. ケナフ名刺づくり、名刺筆耕実演、組ひもづくり、DIY講習会など
4. ステージ・ショー
オカリナ演奏、着付け舞いほか

立川支所だより

年賀状をつくろう！

年賀状は、もう決まりましたか？
 立川支所・パソコンコーナーでは、オリジナル年賀状づくりのお手伝いをします。
 電話で予約をしてお出かけください。
 また、参加当日はプリントしたい写真やイラストと年賀はがきの台紙（レーザープリンター用）を、必要な数だけ各自持参してください。

尚、利用期間は11月30日まで。

連絡先
 三宅村S/C 立川支所
 042-548-3717
 三宅村S/C臨時事務所
 03-3239-4343

(注) レーザープリンター用の年賀はがきは、全国の郵便局で発売しています。早めに購入してください。

漁協からのお知らせ

13.11.1

○お問い合わせ窓口について

現在、お問い合わせ窓口を1本化させていただいております。お問い合わせ等ございましたら、下記お問い合わせ窓口までお気軽にどうぞ。

お問い合わせ先

三宅島漁協東京臨時事務所

電話：03-5783-2181 FAX：03-5783-2182
住所：港区港南4-7-8都漁連水産会館2階
交通：JR品川駅下車。
都バス「品川埠頭循環行き」港南四丁目下車徒歩2分

○理事会開催報告について

第10回災害対策理事会開催

日時：10月12日（金）

場所：旧北区下田臨海学園

議案：

①三宅島漁協漁具類等搬出要綱の制定

②今後の業務体制

【議事内容】

①漁具類の搬出について、漁船とともに避難した組合員及びその乗組員を対象に実施。今後は、操業再開の目処がたった組合員の要望を受け、順次実施していきます。

②避難の長期化に対応していくため、経費節減等一層の効率的業務経営に努めています。

11月からは浅沼、宮下、山上が窓口となり、皆様の問い合わせに対応いたします。

サービスは従来通りで営業時間は以下のとおりです。

営業時間：9：00～17：00

（12：00～13：00昼休）

営業日：月曜日～金曜日

業務内容：販売・購買（一部）、信用、共済

○東京都漁連鮮魚市に出店しました！

先月20（土）、21日（日）に鮮魚市が開催され、三宅島漁協も出店しました。場所は都漁連流通センターの一角で、イセエビとキンメダイを販売しました。また、両日ともエビ汁や島の産品の無料配布が行われました。



次回のお知らせ

11/24（土）25（日）

12/22（土）23（日）

※ 詳しい内容については、別紙チラシ
を見てください。

○エビ漁について

1. 10月中旬から10月末まで共同操業し、約1トンの水揚げがありました。
2. 個人操業、共同操業のお手伝いのためにエビ網のレンタルを行ないます。
詳しいことは漁協にお問い合わせ下さい。